

**Citation:** Linde K, Allais G, Brinkhaus B, Manheimer E, Vickers A, White AR. Acupuncture for tension-type headache. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 1. Art. No.: CD007587. DOI: 10.1002/14651858.CD007587.

**CRG名:** Pain, Palliative and Supportive Care

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 14 April 2008

**Clib issue No.;** N/U: 2009 issue 1, New

**背景:** 緊張性頭痛の予防のために鍼療法がしばしば使用されているが、その有効性については依然として議論を呼んでいる。本レビューは、(対をなす「片頭痛予防のための鍼療法」に関するレビューとともに)コクラン・ライブラリの2001年第1号に最初に発表されたコクラン・レビューの改訂版である。

**目的:** 鍼療法がa)無予防的治療／ルーチン・ケアのみよりも有効であるかどうか、b)「偽」(プラセボ)鍼療法よりも有効であるかどうか、c)発作性または慢性の緊張性頭痛のある患者の頭痛頻度の減少に対して、その他の介入と同程度に有効であるかどうかを検討する。

**検索戦略:** Cochrane Pain, Palliative & Supportive Care Trials Register、CENTRAL、MEDLINE、EMBASEおよびCochrane Complementary Medicine Field Trials Registerを2008年1月まで検索した。

**選択基準:** 発作性または慢性の緊張性頭痛患者を対象に、鍼療法介入の臨床的効果をコントロール(急性頭痛治療のみ、またはルーチン・ケア)、偽鍼療法介入または別の介入と比較し、ランダム化後の観察期間が8週間以上のランダム化試験を含めた。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが適格性を確認し、患者、介入、方法、結果に関する情報を抽出し、バイアス・リスクと鍼療法介入の質を評価した。抽出したアウトカムは、効果(頭痛頻度が50%以上減少; 主要な関心のアウトカム)、頭痛日数、疼痛強度、鎮痛薬の使用であった。

**主な結果:** 2317例の参加者(中央値62例、範囲10例～1265例)を含む11件の試験が選択基準に適合した。2件の大規模試験では、鍼療法を急性頭痛治療またはルーチン・ケアのみと比較していた。両試験とも、効果、頭痛日数、疼痛強度について鍼療法は統計学的に有意に、また臨床的にも短期間(3ヵ月まで)コントロールを上回る利益が認められた。長期効果(3ヵ月を超える)については検討されていなかった。6件の試験は鍼療法を偽鍼療法介入と比較しており、6件のうち5件はメタアナリシスのためのデータを提供していた。効果、その他の幾つかのアウトカムについて、鍼療法は偽鍼療法よりも、小さいものの統計学的に有意な利益が認められた。鍼療法を理学療法、マッサージまたはリラクゼーションと比較していた4件の試験のうち3件で、方法論または報告に重大な欠点がみられた。それらの所見は解釈が難しいものの、総合的には、アウトカムのなかにはコントロール群で多少良好な結果が示唆されているものもある。

**レビューアの結論:** 本レビューの先の版では、緊張性頭痛に対して鍼療法を支持するエビデンスは不十分であると考えられていた。今回、その後追加された6件の試験に基づき、レビューアは鍼療法が頻回性または慢性の緊張性頭痛のある患者に有用な非薬理学的ツールの可能性があるかと結論づけている。

(監訳 江川賢一)

翻訳公開日: 09年5月13日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。

